



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO. 5 R6. 06. 03

文責 校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp



学校 HP

あいさつ

挨拶について語るときに僕の語ること ―毎朝校門で考えること―

朝、校門に立っています。限られた時間ではありますが、普段、生徒の皆さんと直接接する機会が少ない立場なので、できるだけ皆さんの姿に接したい、そんな思いからです。掃き掃除をしながら生徒の皆さんを迎えることもあります、「朝から校門で先生が竹刀をもって立っていると生徒が委縮する」とクレーム？を受けたこともあります。でもそれは誤解です。“ほうき”です。(笑)



閑話休題。その時に皆さんがよく挨拶をしてくれるのがとてもうれしい。挨拶に理屈はいりませんね。声が届き、視線が合うとそれが力になります。

昨年の TAKE OFF press 第3号 (R5. 5. 1 付) で別役実の「正しいあいさつの仕方」について書きました。今年は“語先後礼”の挨拶をしてくれる人がいることを紹介します。

挨拶の言葉をどのタイミングで発するかはいくつかの作法があります。その一つが挨拶の言葉を言ってからお辞儀をする方法です。“語先後礼”といいます。もう一つはお辞儀と挨拶の言葉を同時にする方法です。“同時礼”といいます。どちらがいいということはありません。その人の考え方や場の雰囲気が決めるものだと思います。

“語先後礼”をする人はもれなく首筋・背筋が伸びています(1・2年生は志教育で福井秀平講師にご指導いただきましたね)。こういう礼を受けると、こちらも身が引き締まり、思わず腰から礼をし返します。おそらくその人は中学校、いや小学校時代から身に染み込んでいるのだろうなと感心しています。何よりもしっかりと目をこちらに向けてくれる。学ぶ者としての意欲と人としての謙虚さ・品格を感じ、感動的ですからあります。

きれいなお辞儀は、形として頭、首筋、背筋がまっすぐになっているものです。加えて人を感動させるお辞儀は、相手の方に心をきちんと向けているかだなと思いました。

一人一人とあいさつを交わしながら「人のために」という発想を言動や思考の根幹に据えたいものだなと毎朝校門で一人考えている日々です。

まさに深掘り ―DEEP な世界への誘い―

5月18日(土)佐賀城本丸歴史館でSAGAハイスクールDI人材育成プログラムのキックオフイベントが開催されました。このプログラムは県内6校が拠点校として指定され、高校1年生を対象に各校10名～15名程度の定員でDI(デジタルイノベーター)としての資質能力を身に付けようというものです。



このプログラムに本校から11名が参加(1名は佐賀市内LAB)、そしてこのキックオフイベントにはそのうちの2名が参加しました。

冒頭、山口祥義知事から「これからの時代は自分で考えることが大事」と激励があり、SEIRENKATA(精錬方)のロゴをデザインした先崎哲進さんからは「このプログラムでは3つ

のD、デジタル、デザイン、ダイナミックを大事にしてほしい。これまでは最大公約数的な知が求められたが、これからは『ディープだね』と言われるような人であってほしい」とビデオメッセージがありました。

これから他校からも5名の生徒さんを招き、週1回程度、放課後の時間を使って半導体やプログラミング、データサイエンス、AIについて学びを深めていきます。

高校総体 大健闘 ―そこに“探究”はあったか？―

高校運動部活動の集大成である県高校総体が終了しました。出場した一人一人がそれぞれの立場で完全燃焼してくれたことと思います。お疲れ様。



「負けたら終わりではない。辞めたら終わりだ」と言います。この経験を学びに変え、上位大会や受験勉強など、それぞれが次のステップへ歩みを進めてほしいと思います。

本校では“探究を習慣にする”ことを標榜^{ひょうぼう}していますが、その対象は部活動であっても構いません。ただ「〇位入賞」とかそういう目標を達成するか否かが大切なのではなく、その目標、あるいはその先にある目的に向かって、探究の手法（課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現）をスパイラルに繰り返すことが重要なのです。そこには当然トライ & エラーが伴います。その経験が貴いのです。

教科の勉強やその他、まちづくりなどの課外活動も同じです。皆さん一人一人が一番自分らしいと思える分野を探し、探究の手法を当てはめながら、たくましくしなやかな思考を鍛えることが“探究”のねらいです。

今右衛門氏、伝統工芸を語る ―武陵会総会に人間国宝が登壇―

5月19日（日）、第75回武陵会総会が開催され、記念講演として14代今泉今右衛門氏（高校33回卒）が登壇されました。

氏は2002年、40歳で第14代今泉今右衛門を襲名。2014年には陶芸家としては最年少の52歳で人間国宝に認定されています。



講演では、有田の400年の焼き物の歴史を概括しながら、自分が次男でありながらなぜ今右衛門を継いだのか、伝統とは何なのかといったことについて作品を示しながら誠実な語り口でお話されました。

「伝統は受け継ぐものではない。その代、その代が築いていくもの。新しいものに挑戦する時、どうみられるか不安だ。しかしそこからしか緊張感は生まれない」と芸術の粋を語られ、それが聴衆へのエールだと感じました。

今右衛門氏が青春時代を過ごした武雄高校。今の君たちはここで何を学ぶのでしょうか。

（閑人閑話）昨年、ソニーがホンダとの新会社を設立した。トヨタも中国・台湾の滴滴やBYDと提携を結んだ。自動車業界では異業種との連携が広がっている▼これまでは「業界〇位」と業界内での競争が大事だった。しかしこれから分野や業界を超えた「よそ者」と一緒にこれまでにない価値観を創出していくことが求められている▼在留外国人も年々増加し、2067年には日本の人口の1割は外国人となる見込みもある。グローバル化・ダイバーシティの波には抗えない▼昨年のチャットGPTの登場からわずか1年。爆発的に、やや暴力的な拡大を見せる生成AIの進展▼これから生きるにはどんな力を鍛えていく必要があるのか。間違いないと言えるのは、過去に答えはないということだ。（昌）

【当面の主な予定（6月前半）】

- 1日（土）駿台模試（2年）
進研マーク模試（3年）2日まで
- 3日（月）3年放課後補習開始・2年月セミ
- 4日（火）進路保障・内科検診（3年）
- 6日（木）進路講演会（3年）
- 7日（金）耳鼻科検診（1年）
- 8日（土）保護者会（3年）
- 10日（月）眼科検診（全学年）2年月セミ
- 11日（火）さがを誇りに思う講演会
- 14日（金）耳鼻科検診（1年）